

漁業経済

学会短信

No. 3

Dec 63

新会員紹介(三八・九月以降)

大野隆司

中山八島

馬場俊胤

茂木六郎

避佐順吉

田代三郎

なお、十一月の西日本漁業経済学会を機に新たに入会された方々の紹介は、次号にまわさせていただきます。

さしぶりに、にぎやかな誌面になりそうです。発刊は、三月中旬で四月号としてお送りします。

なお、才三番才一号 明年度才一号の原稿は、たたいま集集中です。執筆予定のある方は、テーマ、予定枚数、予定提出期日について、御一報ください。

(秋谷記)

アンケート

明春の学会大会について

明年春に予定している漁業経済学会才十一回大会が近づいてきました。ついでには別紙のようなアンケートを企画しました。記入のうえ、御足労ですが自前で一〇円切手と封筒を調達されて、学会事務局あてお送りください。会員よりの回答をもとにして、今後の大会運営その他のプランをたてます。おそくも一月上旬までに、御返事くださるよう。

(常任理事一同)

学会費納入のお願い

短信NO・2で、会費納入のお願いをいたしましたところ、約五〇名の方から、送金がありました。さっそくの納入に感謝します。

とはいえ、才三・四号学会誌の編集印刷

については、短信NO・2で、すでに連絡いたしました。不審の点がありましたら、御一報ください。

また、納入なさった方には、領収書を送りしておりますから、御確認ください。送金は現金封筒よりも、なるべく振替を利用してください。番号は、東京七一五九六・漁業経済学会です。

次号予告

学会誌才一二巻才四号の執筆予定者と予定テーマは次のとおりです。1・丹羽昭彦、「マグロ大型化と適性規模論」、2・大海原宏訳、「西ヨーロッパの漁業 フランスの漁業と政策」、3・桜井俊文、「新センサスからみた漁業構造の変化」、4・二野瓶徳夫、「大正・昭和における資本主義の発達と漁業構造の変動」。

この他に、東京の三島康雄、松本俊男両氏、金沢の柿本典昭氏、長崎の秋山博一、八木庸夫両氏からも原稿が入る予定で、ひ

広島だより

国鉄ダイヤの改正で、最近、広島下車が大変やりやすくなった。そのせいもあってか、会員の来広は割合多い。こちらのアンテナにかかった人達だけでも、浅野長光、秋谷重男、井村幸二、橋本隆、藤永元作、大海原宏、津田初二、庄司東助、八木正昭、丹羽昭彦、中楯興、平沢豊、音田六哉、黒沢一清、田中浩一郎、丹下孚、中込暢彦、志村賢男、安藤由久、阿部誠、山本金雄、近藤康男の諸氏がこの一年間に広島に足跡を残している。広島といえばカキぐらいしかなのだが、原爆記念と広島という二大観光資源が誘引力を大いに発揮してくれているのであろう。

地元外会員の住来盛んなのに対し、肝心の地元研究者の方は至って数が少ない。昭和二五、六年頃、漁業労働調査等を意欲的にとりあげた県立労働科学研究所の先駆的な業績があるのだが、その後は広島商科大学国富毅氏が殆ど一人でこの地における漁業経済研究の伝統を守って来たといつてよく、昨年、東京から長谷川彰が内海区水研へ来たので、ようやく複数化したという状態である。ただ、周辺には、海田市に会員、狭間富士夫氏があり、また中国地方総合調査所、県水産課、県水試があるので、研究者組織の将来の拡大は充分期待できそうである。

さて、調査・研究の現状であるが、国富氏と岡山大学河野通博氏を中心に「イワシ漁業の地域差に関する研究」(農林省応用試験研究)が本年度から始った。

へ遠方からの手紙

.....南から.....

「港油津まぐろの山よ」と唄われた宮崎の漁港油津も、昭和十八年頃からくろまぐろが回避しなくなり、加えて再三の台風来襲による漁船の災害が大きく、数隻の九九トン型かつお漁船と沿岸小型漁船によって細々と漁業が続けられており、昔日の面影もない現在である。

油津よりバスで三〇分位南下したところに南郷町があるが、こゝには三〇トン型かつお船が三〇隻位あり薩南諸島を漁場に周年操業をしているが、年間三千万円以上の水揚げをする船もあり経営も一応安定している、油津よりむしろこの方が活況を呈しているといえよう。こゝではこの数年間に隻数が急激に増加した。それまで、殆んどが数名の共同経営であったものが隻数増加に伴って次第に変化しつつあるので、わたしとしてはその過程に於ける問題点を追求してみることになっている。

ところで本県には同好の士が少く寂しい限りです。昨秋大阪市大の藪内先生、今春

また、内水研では、会員・山中義一所長の肝入りで経営研究室の看板を掲げ、魚価調査、養殖業調査(下関水大中込氏と共同研究)を実施する一方、県水試への委託費を通じて漁業経営調査を進めている。参加水試は、本年度は山口、大分、高知、宮崎の四水試であるが、将来はその数も調査の内容もより拡充してゆくであろう。

(十月・長谷川彰記)

長崎だより

小関氏の県水産部次長就任を皮切りとして、昨年後半に入って小生、続いて秋山氏が東京から当地に転職してきたことはすでに御承知のことと思います。その後、西日本漁業経済学会への高山氏その他多数の来席、この三月末の山本(皓)秋谷、生明氏による構改調査、七月の内水研長谷川氏による市場調査など、学会員の来訪が相繼ぎ、長崎県水産界は経済づいてきた感があります。

このような情勢の中で、八月に長崎大学茂木六郎、秋山両氏に小生も加わって五島若松町の漁業振興基礎調査が行なわれるなど、内部の協力体制が強化され、他方では長谷川氏の提称による西海区水研、県水試、県水産部の有志と、青塚氏も含む水産経済研究者ほとんど全員とが一堂に会して行なう水産経済問題懇談会がもたれるなど、自然科学者との交流関係が育ってきました。

この懇談会は、七月十三日が、才一回のいわば結成会、八月二十日才二回は「以西底曳網漁業における漁獲努力量の標準化に関する調査」(真道氏の労作・三八四年四月)

は福岡学芸大の土井先生が調査の途次立寄られ大いに得るところがありました。同好の士の増加を切に願う次第です。

(宮崎県遠洋漁業指導所十一月・堀家博記)

.....北から.....

十一月も末となり水雨の降る稚内は、いまホッケ漁の最盛期です。八五トンクラスの稚内基地船で稚内からせいぜい三時間足らずで到着するノース場、五・六時間で到着するイース場がその主漁場で午後出漁すると翌早朝満船して入港します。昨今あまりにも獲れすぎて魚価は低落し、処理能力は追いつかず漁獲制限までする騒ぎです。以東底曳の大根抛地としての稚内は年ごとに中央市場の扱い高が増大し、三六年度の三二億四千万円余に対し三七年度は三五億八千万円余を記録致しました。もっとも水揚げは逆に二万トン余も減少していますのでこの間の漁獲努力量の増大という事を併せ考えますとストックについていささか問題があるようです。

さてそれはともかく、今後ますます問題化しそうなのが乗組員不足とその高令化で

連絡 会員より事務局へ
事務局より会員へ

最近、会員の住所変更、勤務地移動がひんぱんなようです。移転の際には、学会事務局宛に連絡をお願いします。学会誌が転居先不明でもどってくるものが、すくなくありません。

◎次の方々、自宅の所番地を御連絡ください。

秋田俊一、池松政人、石田昭夫、岩崎繁野、江波澄雄、沿野啓三、梶原 武、川原円次、北村 尚、黒木三郎、小林謙一、齊藤治郎、左衛門、境 一郎、最首光三、鈴木 旭、杉山ふみ、染野松雄、武佐 寛、竹島 清、寺岡景郎、中北克己、新延考明、古谷直康、増田哲夫、宮城保仁、山中義一、山本 正、山本 覚、(アイウェオ順、敬称略)

◎次の方々、勤務先名とその所在番地を御連絡ください。

後夷安男、岡本太郎、大島幸吉、倉田正邦、館村徹也、中谷芳勝、広部富雄、土井秀夫、内藤政治、中村利弘、栖林徹夫、山下豊治、大和裕子、和田 勉、(同 前)

◎学会の会員名簿を整備中です。なるべく早い機会に、御一報ください。

を検討し、近く予定されている才三回においては、同じく真道氏の「東海におけるレソコダイ資源の研究」(三五年十一月、西海区水研報告才二〇号)の検討を行なうことになっていきます。

なおこの会の運営ならびに検討すべき問題に関して、諸兄の御意見を御聞かせ下さい。

(九月十三日記)

す。待遇は一般乗組員は固定給一万三千元、最低保障三万円といったところなので全国的に考えても普通、或いは普通以上かと思えますが労働時間、労働量、労働のあり方等も併せて考えますとむしろ低いように思われます。

その他問題が多すぎる位あるようですが、ユニオンショップ別の確立とか、有給休暇制度の実施であるとか、欠員の取り扱いを明確にするとか、いづれも今後の課題とされています。また、船頭制のあり方(特にその「特歩」に関して)も若い労働力を積極的に導入するためには再検討される必要がある事と思われまます。これらの問題点解決のために、そして底曳漁業の労働者に魅力のあるものにするためには乗組員自身の自覚と問題解決への努力も勿論必要な事でしようが、私はより以上に船主が早急に「親方」から「経営者」へと脱皮する事が企業の繁栄のためにも是非必要であると考えています。

(稚内高校・松原純 十一月記)

各地の会員のニュースを待ちます。連絡先は、学会事務局もしくは秋谷宅あて。

a・学会誌の発行を年二回にする

b・学会誌の発行は年四回を維持し、会費を年間三〇〇〇円に値上げする。

——この場合には、年間四八万円の収入となり、ある程度人件費をみこむことができます。

c・学会誌の発行は年四回を維持し、会費は値上げせず、会員を増加する。

この場合、会員が三〇〇名以上となれば、事務局担当の常勤者が必要です。

月一万円の給与として、年に十二万円の人件費がかかります。したがって、印刷部数増と合して必要経費は五五万円以上となり、八〇%の回収率とみて、約七〇〇名の会員組織が必要です。

d・会費を二五〇〇円に値上げし、会員を四五〇名程度組織する。——この

場合は新入会員が一五〇名程度になります。いわば、b・cの統合案です——なお参考までに報告しますと、学会では例年約一〇名の加入と脱退があります。在京常任理事も、新会員の加入にいろいろ努力していますが、年間一〇〇名の新加入者がやっというところと、現在、三〇〇名の会員中、東京在住者が一六〇名の多数で、東京

ではこれ以上に急激な会員増はちよつと望めません。したがって、一〇〇名、二〇〇名といった会員増は、地方の会員が急増しないかぎり不可能と思われます。そういった訳で、c案・d案は地方理事と地方会員に、かなり活動していただかないと実現はむづかしくなります。

e・会費を二五〇〇円に値上げし、不足分を、会員カムバで充足する。一、〇〇〇円カムバだと五〇〇名。二、〇〇〇円カムバだと二五〇名。五〇〇名の恒常的な協力が必要です。

f・一般会員とは別に団体加入制度・特別会員制度などを、もうけて、別途に資金を調達し、会財政の不足分を補充して、年四回の会誌発行を維持する。
g・その他案（具体的に記入してください。また、あなた御自身が、その案にどんなかたちで協力できるかも、一筆してくださいれば幸いです。）

8・その他学会大会への要望事項がありましたら、左に記入してください。

9・なお、六四年度の学会会員名簿を作製する関係上、勤務先と自宅の所番地を記入してください。とくに、最近勤務先のかわられた方、住居を移された方は、正確に記入してください。

勤務先

自宅

氏名

アンケート 学会大会に関して

アンケート（適当と思われる項目を丸でかこんで、学会事務局宛にお送りください。ただし、封筒・一〇円切手はお手数ですが自弁してください。）

1. 学会大会の開催時期について

- a. 例年どおり四月上旬でよい
- b. 四月上旬は不適當である（その理由と適當な時期を左に記入してください）

2. シンポジウムについての希望

- a. 労働市場問題・賃金・労働過程
- b. 流通・加工・価値実現の問題
- c. 経営・成長問題
- d. 制度問題
- e. その他（具体的に左に記入してください）

3. シンポジウムの報告者について（とくに、報告を期待する人があれば、その氏名を左に記入してください。）

4. 学会大会への参加について

- a. 参加の予定
- b. 不参加の予定
- c. 未定（未定の方で、参加の意思がある方は、未定理由を左に記入してください。なお、学会事務局としては、明年の学会大会には、宿舎のあつせんをするつもりです。）

5. 参加予定の方は次の質問にお答えください。

- a. 個別報告の予定あり
 - b. 個別報告の予定なし
- 個別報告のテーマ

6. 学会賞について（受賞対象は、過去一・二年のうちで、当学会員が執筆発表した単行本、または学会誌論文。著者名と題名を記入してください）

7. 財政問題について

学会の財政は、学会誌印刷費・発送費で年間三六万円かかります。これに連絡費・事務費をくわえて、年間、最少限で四〇〜四五万円は必要です。——ただし、学会事務局担当の人件費は含まれない——。

現在、学会員は三〇〇名で、年間の会費回収率は八〇％程度で、約二四万円の会費の収入がありますが、必要経費に比し約一六万円は不足します。これに事務処理の人件費、今後の物価上昇などを計算にいれると、将来の不足額は、増加こそすれ減少するとは考えられません。

そこで、学会財政の収支をバランスさせるため、次のような諸案が考えられますが、適當と思われるものを選定してください（裏面につづく）

西日本漁業経済学会 第五回大会開く

——於カゴシマ——

才五回西日本漁業経済学会は、十一月二五日から三日間、桜島のみえる鹿児島大学学生会館でおこなわれた。大会は、鹿大・原多計志、岩切成郎両氏の準備よろしきを経て盛会であった。漁業経済学会からは、中井昭・赤井雄次・秋谷重男の三常任と、平沢豊が出席した。

二五日のシンポジウムは、既報（短信才一号・才二号参）したように、「カツオ・マグロ漁業経営の諸問題」で、中込暢彦（※）・原・米田一二三（※）・八木庸夫（※）諸氏の報告にもとずいて討論が集中した。

翌二六日は、個別報告がおこなわれ——、
1・鹿県マグロ漁業の経済的生産性・県漁政課・久保邦次
2・三九トン型カツオ漁業の労働問題・山川高校・蓑田瑞穂
3・県外出漁と構造改善・広島県水産課・西本実
4・漁業融資保証制度の現況と課題・佐賀県基金協会・北川令三

5・私たちの漁協統合信用部について・野母崎漁協・三浦郁男

6・宮崎県沿岸漁業の問題点・県水産課・野崎徹志

7・長崎県漁協金融の現状と問題点・県信漁連・木村正彦

8・鹿児島ハマチ蓄養の現状・県水試・荒牧考行

9・瀬戸内における養成ハマチ価格の動向・兵庫県防勢中・吉木武一（※）

10・補償と漁業権価格・内水研・長谷川彰（※）

11・マグロ漁業の組合自営と成立類型・大阪市大・藏内芳彦（※）

他二氏の報告があった。なお（※）の報告者は、漁経学会員で、西日本にも加入している者。

転居転勤通知

柿本典昭

酒井典一

佐藤 浩

下城宏之

高橋富士夫

津田初二

藤木三千人

古谷直康

三浦八郎

宮本 正

村上善隆

守矢 哲

門馬 正

谷沢義明

山本伸治 旧姓山下伸治

山本皓一